

経済マンスリー

[原油]

原油市場を取り巻く環境（7月）

1. 原油価格の推移

7月の原油価格（WTI 期近物）は、59ドル台（1バレル当たり、以下同）で始まり、OPEC等による協調減産の延長や、米国とイランの対立緊迫化等を受けて、上旬に61ドル程度まで上昇した。しかし、その後は米国の原油需要の鈍化や、中国の4-6月期の実質GDP成長率が1992年の統計公表以来最低となったこと等を受けて、需要減退懸念が改めて材料視され、50ドル台後半で一進一退を続けた。

2. 需給の動向

（1）需要

原油需要は、世界経済の循環的な減速や米中対立等による下押し圧力が継続しており、過去1年程度、概ね横這いで推移している。

（2）供給

OPEC等は7月1、2日の総会で、今年1月からの新基準での協調減産を来年の3月末まで延長する旨を決定した。同時にOPEC等による恒久的な協調を目指す協力憲章の草案が承認され、この先も需給均衡を追求する姿勢が改めて示された。

米国シェールオイルは、原油価格が採算目線とされる60ドルを割って推移するなか、リグ稼働数が減少を続けており、生産量の伸びは減速している。価格が60ドル程度で推移していることから、今後も生産量の鈍化が続く可能性が高い。

3. 地政学等の動向

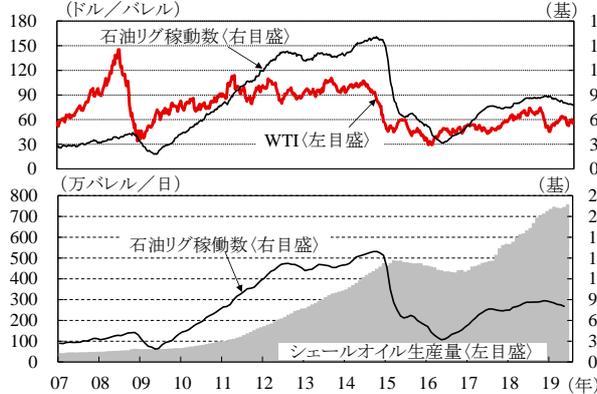
イランの原子力庁は7月8日、60日以内（9月6日まで）に核合意に参加する英独仏等との間で協議の進展がなければ、更なる核合意の義務停止を行うと発表した（足元では貯蔵量と濃縮度が核合意の上限を超過）。期限が約1ヵ月後に迫る中、28日には米国以外の核合意参加国とイラン間で緊急会合が開催された。今後も協議の継続が見込まれるものの、イランと欧州間の対立も先鋭化しているなか、進展は不透明である。こうした状況下において、国際エネルギー機関（IEA）のビロル事務局長は、ホルムズ海峡の緊張等を念頭に「原油市場の十分な供給を確保する」と発言し、緊急時にはIEA加盟国に義務付けられている原油在庫を放出することについて言及した。

原油価格(WTI期近物)と世界の需給バランスの推移



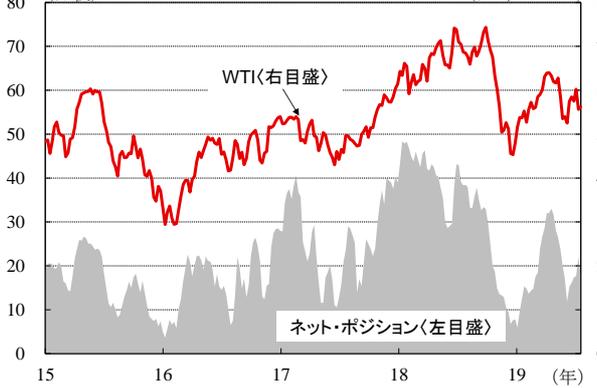
(資料) IEA資料、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

原油価格と米国の石油リグ稼働数及びシェールオイル生産量の推移



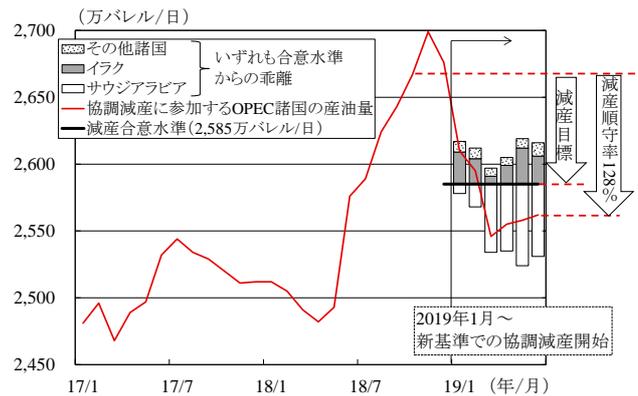
(資料) 米国エネルギー情報局、Baker Hughes社資料、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

原油価格と投機筋(マネー・マネージャー)のネット・ポジションの推移



(注) マネー・マネージャーは、商品投資顧問や先物運用管理会社。1枚=1,000バレル。
(資料) 米商品先物取引委員会資料、Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

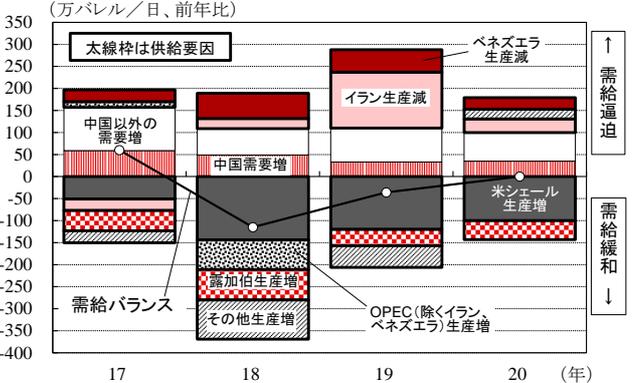
協調減産に参加するOPEC諸国の産油量の推移



(注) 協調減産に参加するOPEC諸国の減産目標は昨年10月比▲80万バレル。協調減産に参加するOPEC・非OPEC諸国の減産目標は同▲120万バレル。

(資料) IEA資料より三菱UFJ銀行経済調査室作成

原油の需要・供給の増減と需給バランスの推移



(注) 1. その他生産はNGLも含む。
2. OPECはイラン、ベネズエラを除く。2019年5月現在の加盟国ベース。
3. 2019年以降はIEA及び当室見通し。

(資料) IEA資料より三菱UFJ銀行経済調査室作成

原油価格と米ドル実効為替相場の推移



(資料) Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱UFJ銀行 経済調査室 伊勢 友理 yuri_ise@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませ、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。